

## 設計の理念と考え

●仙台フィルハーモニー管弦楽団の活動をはじめ音楽や多様な実演芸術の鑑賞、発表による楽都仙台の文化芸術拠点と、東日本大震災をはじめ災害を乗り越えてきた経験を記憶、伝承、発信していく防災環境都市仙台ならではの災害文化創造拠点が相互に共鳴しあうことで生まれる交流、活気、未来のあふれる施設となるよう計画します。

●平面的、立面的に大きな施設となるため、青葉山や広瀬川の景観にそぐわない巨大な箱型の形状ではなく外観を分節化しボリュームを落とすことで周辺環境に影響を及ぼさない建物を計画します。

●県の指定文化財である仙台城跡からの景観にも考慮し、屋根形状も外観同様に分節化しボリュームを落としつつ屋上緑化を行うことで青葉山や広瀬川の景観の一部となるように計画します。

●特徴的な空間表現を避け、スケルトン&インフィルの単純な構成による空間を計画します。単純な空間構成の基で多様な活動が行われることで、新たな交流が生まれた際にもインフィルでの対応に必要な空間に対応しやすく計画します。また、施設全体を使った総合的な活動も展開しやすい空間を目指します。

●1階施設東側の青葉山公園と、施設南側の屋外広場にもそれぞれ屋外へと活動があふれ出ていくことで施設利用のない周辺歩行者にも活動が関わっていきやすい計画とします。

●災害文化創造支援・発信エリアの展示ゾーン、ゲートウェイスペースはエントランス、交流イベントロビーに隣接させることで音楽ホール利用来館者の目にも留まりやすく気軽に・自由に訪れられる計画とすると共に、災害文化の普及啓発・発信を促します。

●桜の小径、青葉山公園の歩行者動線の延長上にカフェ、レストランや二階テラスへの階段を配置し、青葉山公園の豊かな自然を体感しつつ目的を持たない方でも施設に関わりやすく立ち寄りたくなるよう計画とします。

## 設計を進める上で特に留意すること

●設計から施工の各段階において様々な立場や年代の施設利用者様（障がい者や高齢者、子育て世代、学生、地域住民など）へ対し事業者様が運営される説明会やワークショップなど様々な打合せの機会に積極的に設計者として協力し、市民含め皆で共に作り上げていく施設を目指します。

●仙台市に設計共同体の拠点を構え、いかなる状況にも迅速に対応ができる環境を整えます。

## コスト縮減に関する提案

●基本設計時の段階から外構整備に関わる費用、音響設計費、備品購入費、調査費等その他関連費用についても建築計画と共に早い段階から検討することでコスト削減の大きな効果を期待します。

●給湯設備には、潜熱回収型の給湯器を採用することにより、省エネルギー給湯を可能とします。

●高効率な設備機器を採用することの前提として、屋根・外壁・窓をはじめとする外皮性能を高めることで空調負荷を軽減し、機器の性能を適切に選定する計画とします。

●屋根面における外断熱も兼ねて屋上緑化を採用することで冷暖房負荷を低減し、また、太陽光発電パネルも設けることで電気エネルギーの削減に寄与します。

●外壁面各所に設けた大きな窓からは自然採光を取り込むことができ日中における室内の照明負荷低減をはかり、また、自然換気も可能であるため中間期における空調負荷低減にもつながります。

●地下ピットに雨水貯留槽を設け、敷地内樹木や屋上緑化部分への散水に使用できるようにすることでランニングコストの低減を図ります。

●昼光センサーによりアンビエント照明を調光することにより照明エネルギーの削減を図ります。

## 将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

●大小ホールの屋根はトラスフレームによる鉄骨造とし、それ以外は空間の規模に応じてSRC造とRC造のラーメン構造を適材適所に採用します。

●空調方式は、大小ホールやロビーなどの大空間は単一ダクト方式とし、それ以外の諸室については外調機+ファンコイルユニットによる方式とすることで様々なアクティビティに対応可能な計画とします。

●大きな面積となる大ホール客席の天井は鋼材下地の直固定天井とすることで、各種設備等の制約を軽減し、また天井裏の維持管理がしやすくなるように計画します。